

## 為替週間展望 = ドル円は底堅い展開か

[10月1日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10月4日～10月8日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	111.05	111.94(8)	110.82(4)	111.91	+0.86
ユーロ・ドル	1.1596	1.1640(4)	1.1529(6)	1.1545	-0.0051

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,048.94	-722.13	日本10年債利回り	0.080	+0.018
ダウ平均株価	34,754.94	+428.48	米10年債利回り	1.573	+0.111

=====

<来週の主要経済統計等>

- 11日 英8月鉱工業生産指数、英8月製造業生産指数、英8月貿易収支
- 12日 英9月雇用統計  
独10月ZEW景況感指数  
国際通貨基金(IMF)が世界経済見通しを発表
- 13日 日本8月機械受注高  
中国9月貿易収支  
独9月消費者物価指数確報値  
ユーロ圏8月鉱工業生産指数  
米9月消費者物価指数  
米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(9月21～22日分)  
20カ国・地域(G20)財務相・中央銀行総裁会議
- 14日 豪9月雇用統計  
中国9月消費者物価指数、中国9月生産者物価指数  
日本8月鉱工業生産指数  
スイス9月生産者・輸入価格  
カナダ8月製造業出荷  
米9月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数  
衆議院解散(衆院選は19日公示、31日投開票)
- 15日 ユーロ圏8月貿易収支  
カナダ8月卸売上高  
米10月NY連銀製造業景気指数  
米9月小売上高、米9月輸入価格指数  
米10月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】インフレへの警戒感や米長期金利の上昇を背景にドル円は112円近辺まで上昇を見せた後は、修正安に転じている。ボリンジャーバンドのバンド幅を拡大しながらの上昇が続いてきたものの、その動きが一服しており、高値圏でのみみ合いで推移することになった。

【ドル円は高値圏で底堅い動き】

10月4日の週も米国株は前週と同様に荒れた流れが続いた。NYダウは4日に323ドル安、5日に311ドル高、6日に102ドル高。7日は337ドル高。米国株は連日のように荒れた動きを見せたものの、米国の債務上限問題への警戒感が後退したことで、上昇に転じている。

そうした中、ドル円は4日の欧米市場の株安などからリスク回避の動きとなって、1

11.30円台から下げに転じて110.80台まで下落した。5日にはNY原油先物が期近ベースで7年ぶりの高値圏まで上昇しており、インフレ警戒感から米長期金利が上昇して、ドル円は111円台半ばまで戻した。9月の米ISM非製造業景況指数が61.9となり、事前予想(59.9)や前回値(61.7)を上回ったこともドル買いにつながった。

米10年債利回りは4日に1.46%台まで低下したものの、6日には米10年債利回りが一時1.57%まで上昇した。ドル円は111.70台まで上昇したものの、その後は111.20台まで下落した。6日に発表された9月の米ADP雇用統計は前月比56.8万人増と事前予想の43.0万人増を上回った。ただ、米雇用統計の結果を見極めたいとの思惑もあり、影響は限定的となった。7日のNY市場では米長期金利は1.57%台に上昇して、ドル円も111円台半ばで堅調な推移を見せた。

10月11日からの週の注目材料としては、13日の9月の米消費者物価指数、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(21~22日に開催分)、14日の9月の米生産者物価指数がある。米消費者物価指数の予想値は前月比+0.3%、前年比+5.3%で前回と同水準。コアは前月比+0.2%で前回(+0.1%)から、前年比は+4.1%で前回(+4.0%)から、いずれも伸びが加速する見通しとなっている。

米生産者物価指数の予想は前月比が総合で+0.6%、コアが+0.5%といずれも前回から伸びが減速する見通し。前年比は総合が+8.8%で伸びが前回(+8.3%)から、コアは+7.1%で前回(+6.7%)から、いずれも加速する見通し。消費者物価指数も生産者物価指数も依然として高水準ながら、伸びが減速するようなら米長期金利の上昇は抑えられて、ドル円も伸び悩みを見せることとなろう。一方で、予想から上振れすると、ドル円は一段と上値を迫る可能性が出て来そうだ。

FOMC議事要旨も注目される。9月21~22日FOMCでは、メンバーによる政策金利見直し(ドットチャート)では、18人中9人が2022年中に利上げが必要になるとみており、前回(6月)は2023年予想となっていた利上げ開始が前倒しされた格好となった。米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長は11月にも量的緩和の縮小(テーパリング)を開始する可能性があるとの見通しを示した。この時の議論の背景などによっては、利上げ観測の高まりなどにつながり、ドル高に振れる可能性がある。

ドル円は111円台半ばから後半での推移となっている。米長期金利が上昇傾向で推移しており、110円台に押ししたところでは底堅い推移が見込まれる。経済指標などの動向に左右されやすいとみられる。日米の株価が不安定な動きを見せると円買いにつながる可能性があるものの、ドル円は底堅い推移を見せることとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、110.50~113.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、13日に日本8月機械受注高、米9月消費者物価指数、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(9月21~22日分)、14日に日本8月鉱工業生産指数、米9月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、15日に米10月NY連銀製造業景気指数、米9月小売売上高、米9月輸入価格指数、米10月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

#### 【ユーロドルは軟調な流れが継続か】

米長期金利が上昇傾向にあることなどを背景にドルは堅調な推移を見せており、ユーロドルは下落基調で推移している。1.1600ドル近辺の攻防の後には再び下げに転じており、一段安となっている。一時1.15台前半まで軟化して、その後も上値の重い動きを見せている。

ユーロ圏では、原油や天然ガス価格の高騰などを背景に1日発表の9月のユーロ圏消費者物価指数が前年比+3.4%となるなど、インフレ圧力が高まっている。ただ、そうした中でも、米長期金利の上昇を受けてドルの堅調さの前にユーロドルは上値重く推移している。こうした中、ユーロドルは軟調な流れが続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1400~1.1650ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、11日に英8月鉱工業生産指数、英8月製造業生産指数、英8月貿易収支、12日に英9月雇用統計、独10月ZEW景況感指数、13日に中国9月貿易収支、独9月消費者物価指数確報値、ユーロ圏8月鉱工業生産指数、14日に豪9月雇用統計、中国9月消費者物価指数、中国9月生産者物価指数、スイス9月生産者・輸入価格、カナダ8月製造業出荷、15日にユーロ圏8月貿易収支、カナダ8月卸売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。